

**いわき市震災メモリアル事業
提言書
<案>**

平成 27 年 月 日

いわき市震災メモリアル検討会議

目次

はじめに ～いわき市における未曾有の震災経験～

1. 震災メモリアル事業の基本的な考え方
2. 震災メモリアル事業の理念
 - (1) 基本理念
 - (2) 基本方針
3. 中核拠点施設の考え方
 - (1) 中核拠点施設の位置づけ
 - (2) 中核拠点施設における事業活動の考え方
4. 中核拠点施設の施設構成
 - (1) 施設構成の考え方
 - (2) 施設構成一覧
 - (3) 施設建設地に求められる条件
 - (4) 施設運営体制
5. 震災メモリアル事業の展開イメージ
 - (1) 事業のロードマップ
 - (2) 事業展開イメージ

おわりに

[参考資料]

- 震災メモリアル検討会議 開催記録[第1～5回]
- 震災メモリアル検討会議 設置要綱
- 震災メモリアル検討会議 委員名簿

はじめに

2011年に発生した東日本大震災によって、いわき市は地震や津波のみならず原発事故という複合災害に見舞われた。また、原発事故に伴う風評被害については今も続いており、様々な分野に影を落としている。

これまでも阪神大震災、中越地震など様々な災害等が起こり、その災害のメモリアルとして様々な取り組みが行われている。いわき市震災メモリアル事業は、震災から4年を経て、この震災の教訓を後世に伝えていくため、何が必要で何を残すべきか、現在と未来の視点に立ってもう一度捉えなおし、震災によって得られた資源をいわき市の発展へとつなげていくための取り組みであり、その検討結果を取りまとめたものが、この報告書である。

いわき市における未曾有の震災経験

○ 未曾有の複合災害

東日本大震災は、いわき市には未曾有の被害をもたらした。地震災害においては、3.11の大地震に加え、4.11の直下型地震がいわき市を襲った。津波災害においても、60kmにも及ぶ海岸線に津波が押し寄せた。そして、福島第一原子力発電所事故は放射性物質への不安や風評被害を引き起こし、現在進行形で市民の生活に影響を及ぼしている。

○ 復旧・復興・再生への取り組み

いわき市は、未曾有の複合災害に見舞われながらも、国内外からの様々な支援に支えられ、市民一丸となって復旧・復興・再生に向けて取り組んできた。また、福島第一原発から近い、浜通りの中核都市として、社会インフラの再生や原発事故の収束などに向けて取り組む市内の人々の拠点として、さらに福島第一原発事故による他地域避難者を全国で最も多く受入れ、共存していることは、いわき市がまさに東日本大震災における浜通り地区の「復興拠点」になっていると言える。

○ 震災が気づかせた未来への資源

東日本大震災は尊い命を奪い甚大な被害を残し、人々に災害への備えの必要性を痛感させた。その一方で避難や支援の場面において人と人とのつながりの重要性が実感された出来事でもあった。そして、現在も各地域が一丸となって復興に向けた

取組みを進めている。我々は震災が気づかせてくれた教訓や絆を、未来への資源として活かしていかななくてはならない。

1. 震災メモリアル事業の基本的な考え方

震災メモリアル事業は、震災の記憶や教訓を確実に伝承し、現在進行中の復興のあゆみを市内外において共有することにより、災害に強く震災前にも増して活力あふれるいわき市の未来をつくることを目的とする。

そして、「震災の記録の保存と継承」「危機意識や防災意識の醸成」「追悼・鎮魂」を事業ミッションと位置付け、震災の記録や震災遺産を活用しながら目的の達成を目指す。

そのため、収集した震災資料を記録・保存・公開する場を整備し、その資料をもとに、将来予測される災害に対しての危機意識や防災意識を醸成する場や機会を設けることが必要と考えられる。そして、震災で犠牲になられた方々へ追悼・鎮魂の気持ちをいつでも伝えられる場が必要である。

したがって、震災メモリアル事業を遂行するためには、中核拠点の整備が必要であり、そこでは震災の記録の収集・保存・継承のためのアーカイブを構築し、その情報を活かした減災教育を行う。また、中核拠点は、情報発信や交流の場として位置づけ、市内各地や周辺地域における復興に向けた取組みを支援する。そして、将来的には、本事業が人と地域の結びつきを強化させることにつながり、いわき市を中心とした“震災メモリアルネットワーク”の構築に貢献するものである。

2. 震災メモリアル事業の理念

(1) 基本理念

～ いわきの復興と飛躍に向けた“みらい事業”～

**震災の記憶と教訓を未来に伝え、災害に強いいわき市を築くとともに、
復興に関わる人と地域をつなぐ**

(2) 基本方針

ア) 今も続くいわき市における未曾有の複合災害の記録を 未来に伝えるアーカイブを構築する

いわき市の震災関連資料を収集・保存・継承するアーカイブを構築し、未来へと震災の記録を伝える仕組みづくり。

イ) 震災の経験と教訓を未来につなぐ学びの場をつくる

災害に強いいわきの未来につなげるため、震災の経験や記憶を継承するとともに、そこから教訓を導き出し、世代を超えて共有していく仕組みづくり。

ウ) 各地域における復興に向けた取組みと未来を担う人材の育成を支援する

復興やまちづくりの取組みについて情報発信を行い、市民や団体、防災・減災・まちづくりなどの関係者、観光客など来館者の交流を通じて、災害に強く活力あふれるいわきの未来を担う人材の育成を図る仕組みづくり。

エ) 震災遺産を入り口とした地域発見と発信を行い地域振興につなげる

震災遺産の保存を図り震災の記憶の継承を図るとともに、それらを入口とした地域再発見に人々を誘う仕組みづくり。

オ) 追悼と鎮魂をおこなう

震災で亡くなられた方々のために追悼・鎮魂をおこなう。

3. 中核拠点施設の考え方

(1) 中核拠点施設の位置づけ

いわき市全域をフィールドとした 震災メモリアル事業の拠点

いわき市全域をフィールドに展開する震災メモリアル事業の拠点として、震災の記憶や教訓を確実に伝承し、情報発信・交流の促進によって現在進行中の復興のあゆみを共有するとともに、災害に強く活力あふれるいわき市の未来を市民とともにつくる事業を展開する拠点にふさわしい施設を整備する。

(2) 中核拠点施設における事業活動の考え方

震災メモリアル事業の理念および基本方針に基づき、中核拠点施設において以下の5つの事業を推進する。

ア) 収集・保存

震災の経験を記憶するモノや情報、体験談、記録資料などをひろく収集・整理し、保存する。また、震災に関する豊富な実物資料にワンストップでアクセスできる施設として、自然災害や原子力災害、防災に関する研究者、市民の学習団体などによる調査・研究活動を支援する。

イ) 学習・継承

いわき市における震災の経験を学習できる場を提供し、震災の記憶の継承と共有を図る。また、震災の教訓を体験的に学ぶ場を提供することにより、防災意識の醸成と災害に強い社会づくりに貢献する。さらに、震災に関するさまざまな資料（アーカイブ）の公開を通じて、幅広い市民や子どもたちの学習・研究ニーズに応える。

ウ) 交流・連携

市内外の人々、研究者、大人（震災経験者）と子ども（震災未経験者）などの多様な交流を通じて、世代を超えた経験の伝承、減災に対する知の共有と発信を図る。また、多様な交流を通じて、市民による連携と協働を活性化させ、

いわき市の復興とまちづくりを支援する。

エ) 情報発信

いわき市の復興のいまをタイムリーに発信し、復興の現状をひろく発信するとともに、いわき市のまちづくりに対する市民の参加意識や協働の機運を高める。また、観光客や来訪者などに対して、いわき市全域のさまざまな地域資源とそのいまの姿を発信し、震災前にも増して活力にあふれたいわきの姿を実感していただく。

さらに、原子力発電所事故に関する情報提供を行い、避難者の不安軽減に努めるとともに、円滑な帰還を支援する。

オ) 追悼・鎮魂

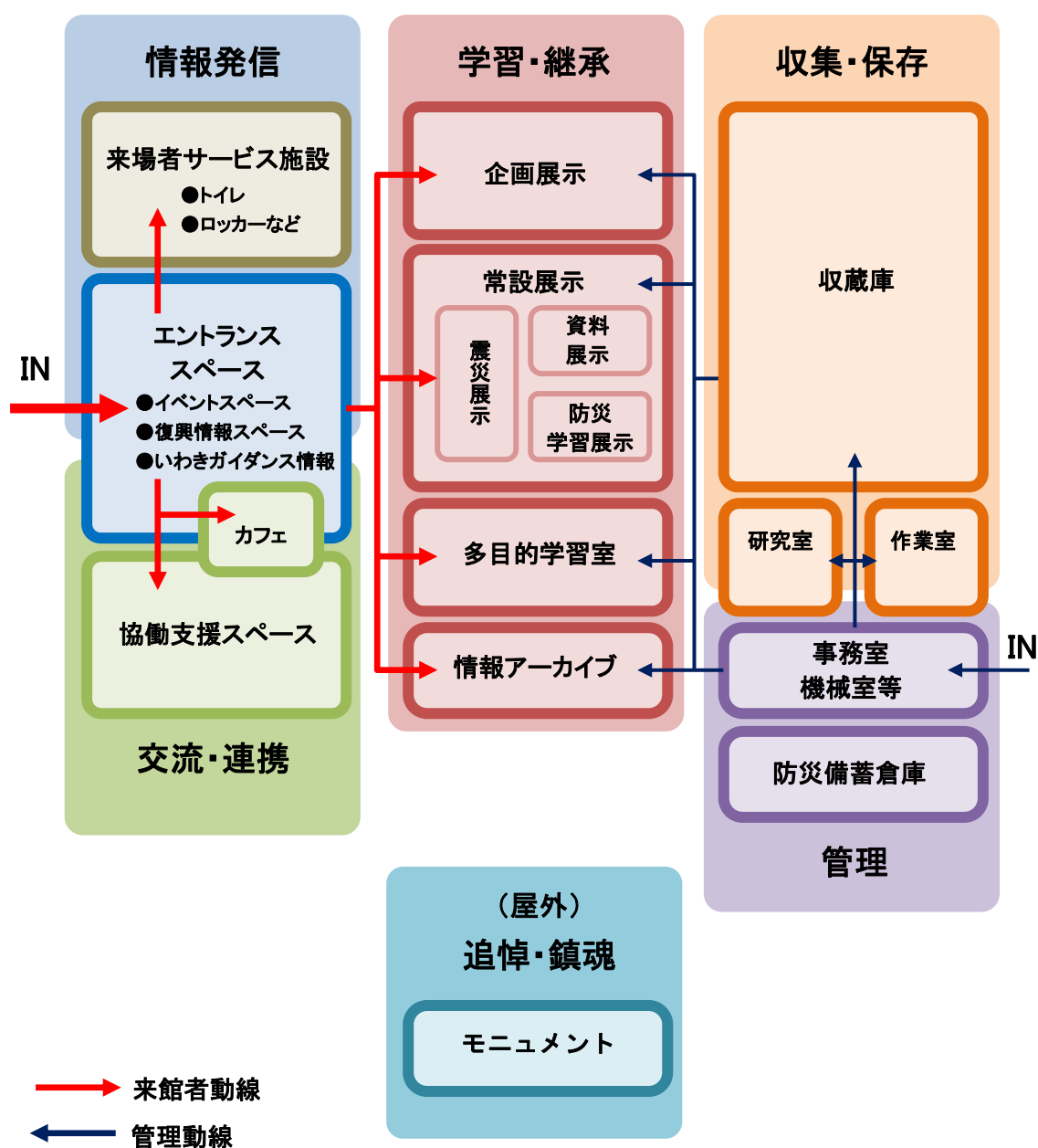
震災で犠牲になった方々を決して忘れないために、追悼・鎮魂の場を設ける。具体的には被害の大きかった沿岸部に追悼・鎮魂の場をつくり、誰もが震災で亡くなられた方々を慎む場を提供する。

4. 中核拠点施設の施設構成

(1) 施設構成の考え方

中核拠点施設において取り組むべき事業活動に基づき、必要となる諸室を設定する。本施設のコアとなる震災の記録を未来に伝えるアーカイブとしての機能の充実を図るとともに、地域との連携や情報発信のための機能を整備し、いわき市内のみならず市外の関係機関等ともつながるハブとしての施設づくりを行う。

【施設構成概念図】



(2) 施設構成一覧

| | 諸室 | 概要 | |
|-----------|------------|--|----------------|
| 情報発信 | 屋外イベントスペース | いわき市の魅力と復興の現在の姿を広く発信する地域イベントや防災イベントの開催。 | |
| | 屋内イベントスペース | 展示や公開セミナーなど、インドア型のイベントを展開。エントランススペースの一部を活用。 | |
| | エントランススペース | 施設のエントランススペース。公開イベントなどの開催により、情報発信スペースとして活用。 | |
| | 復興情報スペース | 原発被災地域の情報を含め、復興状況に関する最新の情報を提供。 | |
| | いわきガイダンス情報 | 市内の震災遺産や自然・歴史文化などの地域資源に関する情報を展示。 | |
| | トイレ・ロッカーなど | 来場者サービス施設。 | |
| 交流・連携 | カフェ | 復興や防災、いわきのまちづくりに関するトークイベントや交流イベントなどを開催。 | |
| | 協働支援ルーム | いわき市の市民、事業者などの復興まちづくり活動の拠点として使用できる多目的活動スペース。 | |
| 学習・継承 | 常設展示室 | 震災展示 | 震災の全体像を解説する。 |
| | | 資料展示 | 収集資料を展示。 |
| | | 防災体験学習展示 | 減災教育のための体験学習室。 |
| | 企画展示室 | 震災、防災・減災、いわきの魅力に関する企画展示。 | |
| | 展示準備室 | 常設展示および企画展示の準備作業を行う。 | |
| | 多目的学習室 | 学習セミナーなどの開催。団体利用者に対するガイダンスルームとしても活用。 | |
| | 情報ライブラリー | 震災記録、報告書、研究論文、体験談などの閲覧。 | |
| 収集・保存 | 収蔵庫 | いわき市の震災資料を収集・保管する。 | |
| | 作業室 | 資料の荷解き・整理、写真撮影、研究作業などを行う。 | |
| | 研究室 | 拠点施設独自の研究活動を行うスペース。 | |
| 追悼 鎮魂 | モニュメント（屋外） | 追悼と鎮魂のための場。（例：追悼・鎮魂の鐘） | |
| 管理機能 | 事務室 | 職員事務スペース、館長室、応接室、会議室など。 | |
| | 警備管理室 | | |
| | 機械室 | | |
| | 一般倉庫 | | |
| | 防災備蓄倉庫 | いわき市防災拠点として整備。 | |
| 一般来場者用駐車場 | | | |
| 職員用駐車場 | | | |

(3) 施設建設地に求められる条件

ア) 市内外の人々が利用しやすいアクセス性

市民や観光客が来館しやすい、利便に優れた立地。鉄道や主要道路からのアクセスに優れた立地が望まれる。

イ) いわき市におけるネットワークのハブに適した立地

いわき市全域の震災遺産をつなぎ、さまざまな活動の拠点となる施設として、いわき市内のさまざまな地域や資源との連携や回遊に適した立地が望まれる。

ウ) 追悼・鎮魂の場所に適した立地

追悼・鎮魂の拠点として、様々な人々が震災で亡くなられた方々を悼む場所となるため、大きな被害が生じた沿岸部の立地が望まれる。

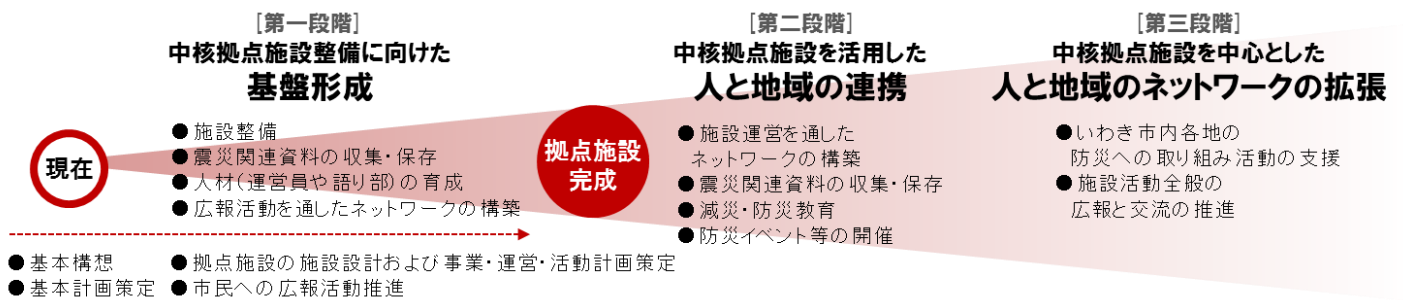
エ) 一定の面積規模を有している

必要施設規模を満たすための面積規模が確保できる敷地面積があることは、用地選定の前提条件となる。

5. 震災メモリアル事業の展開イメージ

(1) 事業のロードマップ

事業のロードマップとして、震災メモリアル事業を遂行するための中核拠点施設整備にはじまり、人と地域の結びつきを通して震災メモリアルネットワークを拡げていく展開を3段階で想定する。市民を原動力として、持続的・自立的に成長・発展していく事業展開をめざす。



[第一段階] 中核拠点施設整備に向けた基盤形成

■ 施設整備

中核拠点施設整備に向けて、施設計画・設計および事業・運営・活動計画を策定し、具体的なイメージを検討し、それらに基づき製作・施工を行う。

■ 震災関連資料の収集・保存

震災関連資料の収集・整理を行い、震災資料アーカイブを構築する。また収集された資料を常設展示等に活用する。

■ 人材（運営員や語り部）の育成

事業・運営・活動計画に基づき、中核拠点施設および事業全体の運営に携わる人材と震災の経験と教訓を語り継ぐ語り部の育成を行う。

■ 広報活動を通じたネットワークの構築

震災メモリアル事業および中核拠点施設の整備計画について広報を行い、各地域の取組みと情報共有・連携を図り、震災メモリアルネットワークの基盤形成を行う。

[第二段階] 中核拠点施設を活用した人と地域の連携

■ 施設運営を通じたネットワークの構築

中核拠点施設における情報発信と交流を通して、第一段階で形成された人と地域のネットワークを更に強化する。

■ 震災関連資料の収集・保存

震災資料アーカイブの構築と、常設展示等に活用するために、震災関連資料の収集・保存を継続して行う。

■ 減災・防災教育

震災の記録と教訓が含まれる震災資料アーカイブや常設展示を活用し、減災・防災教育を行う。

■ 防災イベント等の開催

中核拠点施設のスペースを活用し、様々な対象者に合わせた防災イベント等を開催する。

[第三段階] 中核拠点施設を中心とした人と地域のネットワークの拡張

■ いわき市内各地の防災への取り組み活動の支援

中核拠点での展示体験や防災イベントの開催、各地域の防災の取組みに関する情報発信などを行うことで活動を支援する。

■ 施設活動全般の広報と交流の推進（広域ネットワークの構築）

中核拠点施設における活動について、いわき市内外に広く情報発信することで、広域的に来館者を呼び込み、震災メモリアルネットワークに関わる人と地域の連携を拡張する。

(2) 事業展開イメージ

中核拠点施設を整備した後、いわき市全体および市外も含めた地域を活動のフィールドとして捉え、『人と知』のネットワーク、『震災遺産』ネットワーク、『地域資源』ネットワークの3つのネットワークの活動を推進する。

①『人と知』のネットワーク

震災の記憶や教訓の共有でつながった人々の関係を発展・強化させることで、様々な活動の自立的発展を支援する。

国や福島県、宮城県、岩手県、茨城県、その他自治体の事業との情報共有などによる連携が考えられる。具体的には、国による国営鎮魂の丘整備、イノベーションコースト構想、国立国会図書館アーカイブ（ひなぎく）などが挙げられる。また、福島県における、環境創造センター、復興記念公園、県震災アーカイブ施設が挙げられる。

その他に、いわき明星大学や東日本国際大学、いわき地域振興センター、東北大学など学術・研究団体との情報共有、アーカイブ連携などが考えられる。また、企業による災害対策への取り組み、NPO等団体による復興やまちづくり、防災に関わる活動との連携が考えられる。

②『震災遺産』ネットワーク

中核拠点施設に加えて各地域にサテライト拠点機能を整備する。そして、拠点と各地の震災遺産をつなぎ、活かすプログラムを整備する。

いわき市に遺された震災遺産として、田人地区の井戸沢断層、岩間（小浜）地区の防潮堤、久之浜・大久地区の稲荷神社などが挙げられる。また、中核拠点やサテライト拠点において震災遺産に関する情報発信を行い、各地域の震災遺産保存・活用の取り組みと連携することが考えられる。

③『地域資源』ネットワーク

各地の震災遺産を入口にそれぞれの地域の多彩な文化や歴史を見つめなおし、地域再発見につなげるとともに市内外に発信する。

具体的には、田人地区では、主な地域資源として田人ふれあい館が挙げられる。また、地域住民による活動として、震災遺産である井戸沢断層の地表表出地への植樹活動、井戸沢断層の文化財指定や活用のための取り組みが行われている。

岩間（小浜）地区では、主な地域資源として岩間海岸が挙げられる。また、地域住民による活動として、震災遺産である防潮堤モニュメント整備検討、震災記録保存活動、防災緑地公園の有効活用のための取り組みが行われている。

四倉・久之浜・大久地区では、主な地域資源として浜風商店街やチャイルドハウスふくまるが挙げられる。地域住民による活動として、震災遺産である稲荷神社周辺整備による鎮魂の森構想、防災拠点整備、証言集作成の取り組みが行われている。また、各種復興イベントが開催されている。

その他、小名浜地区の地域住民による活動として、三崎公園やいわき・ら・ら・ミュウなどを利用して、各種復興イベントが開催されている。

また、豊間・薄磯地区では、地域住民による活動として、慰霊碑等の設置、震災を伝承する場の設置、復興の記録作成の取り組みが行われている。

中核拠点において、各地域が有する地域資源や復興に向けた各種取り組みについて情報発信等を行うことによって、中核拠点と各地域をつなぐことが考えられる。

中核拠点施設を中心にこれら3つのネットワークをつなぎ、相互連携と活動の支援を図ることで、それぞれのネットワークの相乗効果を実現する。

こうした事業全体を通して、活力あふれるいわきの未来づくりに向けて、子どもから大人まで幅広い人々と、地域がつながった魅力あふれる地域づくりムーブメントを支援する。

